

「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

# マイペンライ 通信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会  
(略称：大阪マイペンライ)

2009年10月10日

No. 76

TEL・FAX  
072-645-7772

## 学生寮の建設、保育園の改修進む——「国際ボランティア貯金」配分金事業の具体化 第1回バンコク研修事業にも多数の参加者

2009年度の「国際ボランティア貯金」寄附金の配分金による事業について、5月には「学生寮建設と保育園改修」事業について事前の調査・協議を行ってきましたが、9月の段階で、1ヶ所の保育園の改修が終了し、学生寮の建設についても外観が完成するまで進捗しています。また、「研修および研修センター設置」事業については、9月のバンコクでの研修事業の実施し、多くの現地スタッフの参加を得ることができ、成功裏に終わりました。「研修・教材開発センター」も完成しました。

今後は、引き続き残り2ヶ所の保育園の改修および学生寮の開所を進めるとともに、完成後のモニタリングを実施します。また、研修事業に関わっては、ターソンヤン郡での研修事業の準備を進めることとしています。(報告：2～5頁)



## 3年目の「国際ボランティア貯金」配分金への申請を決定

### 2年間の事業を踏まえた新たな実践的研修事業をめざす

9月28日に開催した第1回実行委員会で、9月7日から9日にかけて実施したバンコクでの事前調査、現地のシーカーアジア財団との協議をふまえ、2年間の事業の延長線上に、バンコクでの「出前：ともに遊ぶ公開保育」「出前：親子遊び公開保育」「公開保育実践研修会」「スラム地区住民対象講演会」の事業を実施するために「国際ボランティア貯金」寄付金配分金への新たな申請を行うことを決定しました。(事業計画の詳細は5～6頁)

## 大阪からカンボジア・タイへ

### スタディツアーに行きませんか

こどもたちが、NGOのスタッフがあなたを待っています……

2009年12月13日(日)～20日(日) 早朝  
西タイコース (ターク県ターソンヤン郡) カンボジアコース

今年で第15回になるスタディツアーを募集します。

大阪マイペンライは、アジアの人々との顔と顔の見える交流を進めてきました。その活動の一つが、「アジアに学ぶスタディツアー」です。バンコクのスラム、タイの農村や少数山岳民族の村、南タイの津波被災地、カンボジア・ラオスの農村など、絵本や教科書も乏しく、学びたくても学べない子どもたちの実態など、どの地域も日本の“豊かさ”では考えられないほどの厳しい生活です。でも子どもたちの瞳は輝き、NGOスタッフはいきいきと活動しています。そんな子どもたちや村の人々、NGOスタッフと出会う旅に出かけませんか。今年度は西タイとカンボジア2コースを募集します。西タイは、2年度にわたり、当会が「国際ボランティア貯金配分金」の助成を受けて「研修事業」や「学生寮の建設、保育園の改修事業」を行っているところです。事業実施後の状況を視察することを兼ねて訪れます。必ず、自分自身を突き動かすような体験に遭遇します。あなたの参加をお待ちしています。(実施要綱は2頁)

目次 ■「国際ボランティア貯金」寄附金配分事業進む(P1、P2～5) ■実践的研修事業を申請(P1)  
■スタディツアー募集(P1、P2) ■国際ボランティア貯金寄付金配分事業への新たな申請(P5～6)

## カンボジア・タイスタディーツアーのお誘い（詳細は別紙参照）

日程 2009年12月13日(日)～20日(日)早朝  
コース 西タイ コース（ターク県ターソンヤン郡の村の保育園の視察、交流）  
カンボジア コース（スラム視察、コンポントム州などの農村での交流）  
募集人員 20人（各コース10人前後でグループを作ります）  
参加費 Aコース とも Bコース 180000円  
主催 大阪マイペンライ  
協力団体 SVA（シャンティ国際ボランティア会）SAF（シーカーアジア財団）  
DPF（ドゥアン・プラティープ財団）  
申込締切 2009年 11月13日（金）  
事前学習会 2回開催します。日時については申込者に連絡します。  
申し込み 別紙申し込み用紙で申し込んでください。  
申し込み先：大阪市浪速区久保吉1-6-12 大阪人権センター内大阪マイペンライあて  
（部落解放同盟大阪府連気付） FAX 06-6568-0229  
問い合わせ：090-3948-8372（稲葉事務局長）

## 2009年度「国際ボランティア貯金」寄付金配分事業報告 9月バンコク研修事業報告

事業名：「スラム地区、少数民族居住地区の保育園・図書館スタッフのスキルアップ研修の実施及び保育・幼児教育センターの設置〔タイ〕」

・講師・スタッフは、8月31日バンコクに到着し、スワンプルー、チュワパーンの二つのスラムを視察した。その後、クロントイスラムにあるシーカー・アジア財団事務所にて研修スケジュール・内容について打ち合わせを行った。

・講師(敬称略)

廣田峰子（子ども情報研修センター）、  
蕨川晴之（わかくさ保育園）  
加藤啓子（絵本研究家）  
村中李衣（児童文学教授・3・4・5日参加）

・スタッフ：松尾純代、増田和生、稲葉貞夫（大阪マイペンライ）

・研修の日程と内容

第1日目 研修対象：シーカー・アジア財団スタッフ 参加人数；21人

あいさつ

- ① 0・1・2歳の育ち(映像を交えて) 廣田
- ② 3・4・5歳の育ち(映像を交えて) 蕨川
- ③ 学童期の育ち(映像を交えて) 廣田
- ④ 地域におけるわかくさ保育園の役割 蕨川
- ⑤ ワークショップ(おもちゃづくり)第1部 廣田・蕨川
- ⑥ ワークショップ(おもちゃづくり)第2部 廣田・蕨川

質疑応答

第2日目 研修対象：シーカー・アジア財団スタッフ

参加人数；21人

- ⑦ ワークショップ（集団あそび） 廣田・蕨川
  - ⑧ 絵本を楽しむ 加藤
  - ⑨ ワークショップ（手作り絵本） 加藤
- 質疑

まとめ



・勤務体制を工夫して昨年とは新しいスタッフを送り出している事業所と、昨年と継続しての参加者の両方が見られた。映像と平行しての講義であったことから集中して聴いている様子うかがわれた。手作りおもちゃについては、昨年とは違うおもちゃであったことから新たなおもちゃの開拓が出来たと評価が高かった。

・絵本、手作り絵本については、昨年に引き続き加藤啓子さんと新たに村中さんが加わり、より充実した内容となった。



・全体を通して、こどもとともに遊ぶことの大事さ、楽しくコミュニケーションをとること、読み手とこどもが絵本を通して心を通いあわせることなどを実体験する研修となったようだ。

・アンケートの詳細結果はまだ出来ていないが、内容・運営状況について評価が高く次回開催を求める意見が多くあった。

**第3日目** 研修対象：シーカアジア財団スタッフと大学関係者・出版関係者 参加人数 42人

開会式

「絵本の力を現場に活かす」第1部	加藤、村中
「絵本の力を現場に活かす」第2部	加藤、村中
「絵本の力を現場に活かす」第3部	加藤、村中
「絵本について交流しよう」	加藤、村中
まとめ	



・昨年に引き続き研修で、今年に加藤啓子さんと村中李衣さんの二人のコラボレーションの講義で、大学関係者、医療関係者、出版関係者などスタッフ以外に42人が参加し、昨年の評価の高さが今回の人数増加につながったと思われる。

・こどもと読み会うことの楽しさを伝える研修であったが、アンケートに書かれた内容には、「絵本を読み手が楽しむことが、こども自身が絵本を楽しむことにつながる」「絵本を通してこどもコミュニケーションをとることの大事さを感じた」「絵本の絵を読むことを学んだ」などなど、研修会の意図を理解しての意見が多く現れていた。

**第4日目** 研修対象：バンコク市内保育園、幼稚園から公募 参加人数 82人

開会式

- ① 0・1・2歳の育ち(映像を交えて)
- ② 3・4・5歳の育ち(映像を交えて)
- ③ 学童期の育ち(映像を交えて)



質疑応答

- ④ 地域におけるわかくさ保育園の役割
- ⑤ ワークショップ(おもちゃ作り)第1部
- ⑥ ワークショップ(おもちゃ作り)第2部

質疑応答

**第5日目**

- ⑦ ワークショップ(集団あそび)
- ⑧ 絵本を楽しむ
- ⑨ ワークショップ(手作り絵本)

質疑応答

まとめ

・昨年引き続いての参加者は数人で、新たな参加者が大半であった。各保育園、幼稚園は体制を工夫し、

新たな参加者を研修に出してきたと思われる。その人数が82人であり、昨年の評価の高さがうかがわれる人数であった。

・アンケート集計詳細は出来ていないが、参加者の感想、アンケート記載の感想などには、この内容での研修を実施したシーカー・アジア財団に対して感謝する意見が相次いでおり、こどもとのコミュニケーションの大事さ、「絵本を読み会う」意義、こどもが楽しめる保育所にしたいなどの意見が出されており、研修開催の意義、開催趣旨は十分伝えられる研修であったと思われる。

- ・また、シーカーアジア財団、研修教材開発センターの意義付けにもつながり、会員も100名に増えている。
- ・すでに研修の依頼が研修教材開発センターに届いており、評価の高さの現れである。

## バンコク研修教材開発センター設置事業報告

設置場所 バンコク都 クロントイ・スラム シーカー・アジア財団敷地内

設備・備品の内容

センターの面積 : 33㎡ (6×5.5m)

教材・図書: 布絵本10冊、エプロンシアター30セット、手作りおもちゃ20種、素材(フェルト、刺繍糸など)、参考絵本330冊、参考書144冊を備え、今後補充していく。

設備: 家具等を今後、補充していく

パソコンは今後購入する予定で、ウェブについても今後作成予定。

運営方式: シーカー・アジア財団が管理運営し、当会の招聘研修に参加した同財団のスタッフ2名がセンター担当として、運営に当たる。

開所式・供用の開始 2009年9月6日 午前10時



シーカーアジア財団事務所横に設置されたセンター

## 5月学生寮建設・保育園改修事業報告

事業名: 「少数民族の初等教育整備のための学生寮建設及び保育園の改修〔タイ〕」

□ スタッフの派遣

- 日程 5月2日(土) バンコク到着後、ター県ターソンヤン郡へ 現地団体との事前協議
- 3日(日) 午前 改修予定のフェイマノック保育所で事前調整  
午後 改修予定のセークラー保育園と事前調整  
午後 小学校視察
- 4日(月) 午前 メーソン役場で学生寮建設、保育園改修についての協議  
午後 チョムチョンバーンターソンヤン小中学校で学生寮建設についての事前調整
- 5日(火) 午前 現地団体と建設等についてのまとめ、移住労働者の村の視察  
午後 バンコクへ向け出発
- 6日(水) バンコクでスラム地区の視察
- 7日(木) シーカー・アジア財団と今後の事業の進行管理についての協議

□ 学生寮の建設

・ スタッフの活動内容

学生寮の建設のための現地住民・機関との調整、建設の事前調整、現地での設計、資材調達準備

・ 学生寮建設の場所 ターソンヤン郡 チュムチョンバーンターソンヤン幼稚園・小・中学校

建物の外観がほぼ完成している。今後は内装と家具(2段ベットなど)の作業が残っている。

・ 規模 入寮予定の学生数 60人

・ 開設日 新学期(後期)が開始する11月開設に向けて作業を進めている。

□ 保育園の改修事業

・ スタッフの活動内容

保育園改修のための現地住民・機関との調整、改修保育園の選定、改修の事前調整、設計・資材調達についての打ち合わせ



学生寮の外観

## ・改修保育所の決定

現地の団体地協議し、より劣悪な環境にある3カ所の保育園について選定し、次の3か所を改修することを決定した。進捗状況は次の通り。

ボボキー保育所 改修に着手しており、2009年9月上旬に改修が完成する。

セークラ保育所 2009年9月上旬に改修を開始し、10月には完成予定。

フェイマノック保育所予定していた敷地が変更となり、着手に向けて準備を進めている。



改修したボボキー保育園

## 【国際ボランティア貯金寄付金配分事業への新たな申請】

### 「バンコクのスラムにおける保育者、子ども、保護者を対象とした研修事業」事業計画

#### 1 目的

タイは東南アジアの中で経済発展が目覚ましい国の一つであるが、都市と農村の格差が大きく、また大都市においてもスラム地区が存在しており、経済的な理由や劣悪な子育て環境の中で子どもたちの教育の機会がうばわれています。当会は、これまで大阪で子育てに関わる活動を展開してきた経験を生かし、大国内のスラム地区および少数民族の居住地の保育園および図書館における保育・教育・図書館事業の支援のため、現地 NGO と連携し、大阪への招聘研修の実施など現地 NGO スタッフのスキルアップを図る活動を展開してきました。

また、2008年度、2009年度には、国際ボランティア貯金の寄付金配分により、バンコクのスラム地区31箇所の保育園や図書館スタッフを対象にスタッフのスキルアップを図る研修を開催してきました。

これらの研修を通じて、ともに遊ぶことの重要性を実感しながらも、どのように子どもに遊びを提案すればいいのか、その意義を保護者に伝えればいいのか分からないと悩んでいる保育園・図書館スタッフがあり、実際の子どもの対象に遊びを展開する様子を見ることで（公開保育）具体的に理解できるのではないかと各園での公開保育の希望がでていました。また、保護者に親子で心を通い合わせ、遊ぶ意義を伝えるものの、なかなか理解してもらえないという悩みも出されており、「親子で遊ぶ」研修を実施してほしいと要求がありました。

このような状況を受けて、今回の研修事業においては、1ヶ所に集まる保育士や図書館スタッフだけの研修ではなく、現地に出向き、子どもや保護者たちとの保育を公開して実施することをめざし、より実践的な手法で研修を実施し、保育園・図書館スタッフの実践的なスキルアップを目指すこととしました。

#### 2 現地の状況

2年度にわたる研修会の実施により、1. 子どもとともに遊びを楽しむことの快さ、2. 身の回りにある廃材等が子どもにとってとても大事な教材になることの重要性、3. 自分たちで絵本を作る、創造するすばらしさなどを実感する保育園・図書館スタッフが増し、保育園・図書館の遊びが変わってきた。これは2回の研修会に対する評価からも現れている。

保育者自身が重要性を体感する機会になったものの、それを子どもに、あるいは保護者にどのようにアプローチすればよいか悩んでいる保育園・図書館スタッフがあり、子どもや親子向けの公開保育のニーズが上がっている。

#### 3 全体の事業

2年間のバンコクのスラム地区を対象とした研修の積みあげとして、31箇所の保育園、スラム地区内図書館で、子ども対象、親子対象とした遊び（手作りおもちゃ・からだを使った遊び・絵本）の公開保育を開催し、子どもへの関わり方を直接指導するとともに、親と子どもがともに遊びや絵本を楽しむことを実感する機会を提供し、その指導現場を保育園・図書館スタッフに見学してもらうことを通じて、今後の具体的な子ども指導・親指導の充実を図ります。

あわせて、スラム地域の子育ちを保護者とともに地域住民が支えるために、自らを好きだと感じる子どもを育てるための講演会をスラム地域住民委員会とともに開催します。

##### (1) 「出前：ともに遊ぶ公開保育」「出前：親子あそび公開保育」

保育園・図書館の子どもを対象とした遊びの実践研修、保育園・図書館に通う親子・親を対象とした遊びの研修をバンコク市内のスラム地区の保育園、図書館から選考して、開催する。

出前の公開保育は、子どもを対象としたもの、親子を対象としたもの、子どもの年齢、保育園や図書館における従来の活動、子どもや親の興味などを、保育園・図書館スタッフと調整して実施する。

具体的な遊びのテーマは、手作りおもちゃを作ってあそぶ、からだを動かして遊ぶ、絵本を楽しむなどなど、2年間の研修の中で実践してきた内容を土台に組み立てる。

公開保育の後には、当該保育園・図書館のスタッフとともに、見学者の他の保育園・図書館のスタッフとともに、遊びの進め方、子どもへの対応、親への対応などについて意見交換を行う。

##### (2) 保育園・図書館スタッフを対象とした「公開保育実践研修」

「出前：ともに遊ぶ公開保育」「出前：親子遊び公開保育」を実施した保育園・図書館で、それぞれの所のスタッ

フと、見学した他の保育園・図書館のスタッフで研修会を実施する。内容は「子どもや親子へのアプローチの方法について」「子どもや親子へのかかわり、指導者の対応」などをテーマに意見交換を行い自らの保育実践に行かす実践的な研修とする。

(3) 住民委員会と連携した講演会

子どもの育ちは、保護者と保育園や図書館スタッフと地域とが力をあわせることで豊かになっていく。そこで地域住民を対象とした子育て講演会を実施する。

地域住民対象講演会のテーマ “自らを誇れる子どもに育てたい”

(4) 研修事業に必要な機器の購入

出前公開保育、公開保育実践研修に必要な携帯用の機器を購入設置する。

#### 4 具体的な事業

(1) 事業の着手時期・完了予定時期 平成22年4月～平成22年3月

(2) 事業の対象地域

タイ バンコク都内 スラム地区 10ヶ所 公募し、保育園あるいは図書館を選定する。

(3) 援助対象者・援助対象者数

2年間の研修事業に参加した、スラム地区55カ所の保育園・図書館のうち、公募により①を4ヶ所、②を6ヶ所、③を10ヶ所

① 「出前：ともに遊ぶ公開保育」(子ども約30人)×4ヶ所

② 「出前：親子遊び公開保育」(親子約30組)×6ヶ所

③ 「公開保育実践研修会」(各10人位×10ヶ所)：上記①および②を見学参加した保育園・図書館スタッフ

④ 「スラム地区住民対象講演会」 約200人

(4) ①「出前：ともにあそぶ公開保育」、②「出前：親子遊び公開保育」、③「公開保育実践研修会」④「スラム地区住民対象講演会」の公募の方法

2008年度・2009年度の研修参加者や研修・教材開発センター会員のニーズを受け止め、開催保育園・図書館を選定する。

子どもにどのようにアプローチすればいいのかわからないなどの悩みや意見が出ている保育園・図書館から、子どもを対象とした①「出前：ともにあそぶ公開保育」、親子を対象とした②「出前：親子遊び公開保育」を実施する保育園・図書館を事前に公募する。

③「公開保育実践研修会」の参加者として、①②を見学する保育園・図書館スタッフを、55箇所のスラムの保育園、また図書館スタッフから公募する。

(5) 「出前：ともにあそぶ公開保育」

前期2ヶ所、後期2ヶ所で実施し、保育園で講師が子どもや親の状況について事前把握しながら、子どもとのあそびを通じた保育を実践する。

(6) 「出前：親子遊び公開保育」

前期4ヶ所、後期2ヶ所で実施し、保育園で講師が事前に子どもや親の状況について事前に把握しながら、参加希望した保護者とともに、子どもあそびを通じた保育実践を行う。

(7) 「公開保育実践研修会」

事前に公募した保育園・図書館のスタッフが上記の公開保育の実践を見学し、その後が実践について意見を出し合い学ぶ場とする。

(8) 「スラム地区住民対象講演会」

スラム地区住民と連携し、事前に広報活動を行って参加を呼びかけ、子育てをテーマとした講演会を開催する。

(9) 講師・スタッフの派遣

5月 保育士または幼稚園教諭合わせて3人、運営スタッフ 1人

9月 保育士または幼稚園教諭合わせて3人、運営スタッフ 1人

講演会講師：大阪市あいりん地区 わかくさ保育園園長(予定)

(10) 公開保育、公開保育実践研修、講演会のための事前準備

保育所の公募、研修参加者の公募、資料作成、教材準備等

講演会の事前準備、事前の呼びかけ

(11) 公開保育、公開保育実践研修、講演会などの事業に必要な機器の購入設置

教材 折り紙・廃材・画用紙・新聞紙など、教材・絵本の準備

機器 携帯用音響機器、携帯用プロジェクター、携帯用ノートパソコン、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ

(12) モニタリング

2回にわたる研修事業について、保育園・図書館での実践の状況や、保育園などと親とのかかわり、子どもと親とのかかわりなどについて、その実態について調査検証するためスタッフを派遣する。

実施時期 平成23年2月

派遣スタッフ 保育士ほか 2名

5 具体的な日程(略)